

# 文芸

## 俳句

傾きしまま胸を張る案山子かな  
池田 逸子  
新米の香をか炊き上げし電子音  
伊藤 敬子  
稲刈るや舗装道路に泥土産  
今関満喜子  
秋の雨農夫ぼんやり外眺む  
魚地 照子  
野佛の秋の音聴くまぶたかな  
江森 悦子  
天心に雲侍らせて今日の月  
川島 通則  
人の世の喧騒をよそに虫集だく  
向後 寛  
白菊や琴と共演竹太鼓  
越川せつ子  
ひらひらと花が便りや秋の蝶  
小松 藤男  
つくつくや闇が背から追ってくる  
佐瀬 輝夫  
壺にして色の定まる野菊かな  
椎名万里子  
震災忌焼け札降ってきたと云ふ  
市東富美江

健康で秋の気配を知る心

鈴木とし子

味噌汁の旨かりし夜のそぞろ塞

土屋美枝子

変節をせずに生きたき菊白し

土屋 義昭

ペン牝豚のうすれし此の頃虫の声

戸村 静華

風つよしそれでもしやんと秋海棠

早川 勇

糸のこ草メトロノームでありにけり

藤田 雅夫

友くれしオクラの種が実を生して  
枯れゆくまでの一夏を見る

芹川 初子

大根の間引きをせむと指先が

ふともためらふいづれ残すか

押尾 輝子

まだ痛み残りし右手かばいつつ

梨の皮むくゆつくりゆつくり

浅野 榮子

川岸の散歩の足を休めつつ

水須 俊

稲刈りの済みし田の先町あかり

夕靄の中ぼわりとうかぶ

椎名美枝子

コンバインに稲刈る後を白鷺が

落穂啄むと従ってゆきたり

加瀬 弘子

背もたれを倒してよいかと前席の

青年が言ふ笑顔見せつつ

田崎 尚美

横綱に相応しくなき突き落とし

鶴竜の取組に客席しづむ

青木 秀子

夕暮れを白から紅に染まりゆく

醉芙蓉の花時を急ぎて

西山満里子

遠くから娘夫婦も来てくれて

敬老会に並びて座る

斉藤つね子

## 短歌

夕蟬のはたと聞こえがとまりしは  
早晩秋の時は過ぎゆく

越川 義則

留守もりの短かき秋の夕暮は

灯が恋し人も恋しく

高梨 キヨ

元気でね手を振り帰る孫二人

社会人へ羽ばたく姿に

内藤 くに

.....

.....

.....

.....

## 作品展

### ◎町民会館ミニギャラリー

11月 展示なし  
12月 俳句会

### ◎文化会館ロビー展

11月 パンの花クラブ  
12月 展示なし

### ◎サビア展

11月 展示なし  
12月 アート押し花クラブ

### ◎銚子商工信用組合展

11月 展示なし  
12月 華舟会

こうほう  
博物館 92

## 妙なパワーストーン

特別なエネルギーがあるところを「パワースポット」と呼び、そこを訪れることがはやってる。また、特別な力があると思われる石を「パワーストーン」と呼び、それを触ったり、持ったりもする。この町にも、そういったパワースポットやパワーストーンが、いくつもある。

今回紹介するものは、そのうちのひとつといえるものである。それは、二十年以上前に篠本のあるところで出土した五輪塔の一部で、このような石でも「いわく」がある。五輪塔とは、中世に造られた供養塔で平たくいうと墓石の一種であるため、粗末に扱うとどうなるかわからない。反対に、こ

れを大事に扱おうと、いいところがあるかもしれない。そのようなことから、これをパワーストーンと見ることでできるのではないかと。現在、町民ギャラリーに展示してあるので、一度拝んでみてはいかがか。何かご利益があるかもしれない。

(社会文化課 道澤 明)



▲パワー石の五輪塔